



11:1 さて、ギルアデ人エフタは勇士であったが、彼は遊女の子であった。エフタの父親はギルアデであった。

11:2 ギルアデの妻も、男の子たちを産んだ。この妻の子たちが成長したとき、彼らはエフタを追い出して、彼に言った。「あなたはほかの女の子だから、私たちの父の家を受け継いではいけません。」

11:3 そこで、エフタは兄弟たちのところから逃げて行き、トブの地に住んだ。すると、エフタのところに、ごろつきが集まって来て、彼といっしょに出歩いた。

11:4 それからしばらくたって、アモン人がイスラエルに戦争をしかけてきた。

11:5 アモン人がイスラエルに戦争をしかけてきたとき、ギルアデの長老たちはトブの地からエフタを連れて来ようと出かけて行き、

11:6 エフタに言った。「来て、私たちの首領になってください。そしてアモン人と戦いましょう。」

11:7 エフタはギルアデの長老たちに言った。「あなたがたは、私を憎んで、私の父の家から追い出したではありませんか。あなたがたが苦しみに会ったからといって、今なぜ私のところにやって来るのですか。」

11:8 すると、ギルアデの長老たちはエフタに言った。「だからこそ、私たちは、今、あなたのところに戻って来たのです。あなたが私たちといっしょに行き、アモン人と戦ってくださるなら、あなたは、私たちギルアデの住民全体のかしらになるのです。」

11:9 エフタはギルアデの長老たちに言った。「もしあなたがたが、私を連れ戻して、アモ

ン人と戦わせ、主が彼らを私に渡してくださったら、私はあなたがたのかしらになります。」

11:10 ギルアデの長老たちはエフタに言った。「主が私たちの間の証人となります。私たちは必ずあなたの言われるとおりにします。」

11:11 エフタがギルアデの長老たちといっしょに行き、民が彼を自分たちのかしらとし、首領としたとき、エフタは自分が言ったことをみな、ミツパで主の前に告げた。

エフタは遊女の子であって、母親の違う兄弟たちから憎まれて育ち、結果的には家を追い出されるという逆境の中で育ちました。神様はそのような人をも尊い働きのために召して、勝利者として用いられるのです。

私たちの場合も、自分が思うような生き方ができないときに、それを生い立ちのせいにするのは解決になりません。主の召しに従って決断するかどうかにかかっているのです。また人を見るとときも、その過去をや周辺を見て決め付けてはなりません。

エフタは「主の前に告げた」とあるように、主を中心に生きた人のようです。だからこそ、彼は自分への仕打ちを恨みとして残さないで、主の召しに従い、周囲を助ける思いになったのでしょう。

主への信仰が人の人生をすばらしいものに変え、周囲との和解も導き、さらには幸いな勝利へを導くのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

